

紀伊水道におけるカタクチイワシシラス 漁況予測技術の開発*

抄 録

武田 保幸

目 的

当事業は、瀬戸内海東部域で漁獲されるカタクチイワシシラスの漁況予測について、予測精度向上のための新技術を開発することを目的とする。和歌山県では、紀伊水道とその外域で漁獲されるシラスについて、漁海況および生物学的な知見を得るための調査を行った。

当事業の内容については既に平成6年度瀬戸内海水産資源担当者会議（平成7年3月、広島市）において資料提供・口頭発表を行っているので、ここでは結果概要について述べる。

方 法

1. 主要漁協の月別漁獲量

紀伊水道内および紀伊水道外域の主要水揚漁協（紀伊水道内：西脇、箕島町、栖原、紀伊水道外域：南部町、田辺）におけるシラス月別漁獲量・努力量を調査した。

2. シラス混獲率

1994年冬・春季の1～5月に上記5漁協における船曳網の漁獲物について調査した。シラスのサンプルは、水揚1日分につき約50gを採集・固定した後、魚種別の混獲率と全長・体重（湿重量）を測定した。混獲率は重量%とし、紀伊水道内と紀伊水道外域の旬別混獲率を求めた。

3. 水温連続観測

逢井および椿の定置網漁場に自動記録式水温計を設置し、紀伊水道外域から紀伊水道内への暖水の波及状況を調査した。

4. カタクチイワシシラスの耳石日周輪

上記5漁協の船曳網漁獲物および美浜町、御坊市漁協の地曳網漁獲物計600検体について、耳石を採集し、漁獲日とふ化日の関係を検討した。

結 果

1. 1994年の紀伊水道におけるシラス漁況

紀伊水道内の春季シラス漁は3月下旬にマシラス主体で初漁があり、4月中旬からカタクチシラスが漁獲に加入した。しかし、カタクチシラスは低調で、マシラスの混獲率が低下した5月中旬には春漁は低調になった。6～9月には猛暑・少雨による高水温が影響し、シラス漁は極めて低調に推移した。秋季以降のシラス漁も不漁であった前年をさらに下回る低調な漁獲であった。

一方、紀伊水道外域の田辺湾～南部湾では、1994年冬・春季はマシラスが好調であった。

* 資源管理型漁海況予測技術開発試験事業費による。

2. 耳石日周輪の解析結果

4～6月の漁獲物は、2月中旬～4月中旬にふ化した個体がほとんどで、同時期に漁獲されたシラスは、ふ化時期も重なる傾向がみられた。また、漁獲日が遅い程、ふ化時期の遅い個体が漁獲されていた。